

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1194800064		
法人名	医療法人 彩清会 清水病院		
事業所名	グループホーム梅こよみ		
所在地	埼玉県秩父郡皆野町大字国神854-6		
自己評価作成日	平成23年11月25日	評価結果市町村受理日	平成24年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88逸見ビル2F		
訪問調査日	平成24年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちは、入居者さまのライフストーリーを一番大切にしています。認知症の方もその介護をする方も、病気とそれによって生じる問題ばかりに目を向けてしまいがちになります。今でもそこに存在しているはずの「人」を見失ってしまわないためにも、入居者さまが、認知症によって障害を抱える前はどんな人だったのかを最初を知る必要があります。認知症は二の次と考えています。私たちは「その人」を中心としたケア・【パーソンセンタードケア】を実施します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人が医療法人である当ホームは、医療面のサポートも充実しており、安心した生活を送ることができる。職員は研修を何度も行い、認知症について考え、日々のケアに活かし取り組んでいる。また、防災にも力を入れており、避難訓練の他にDVD研修も行っている。災害時における近隣の住民との協力体制も築かれている。普段から近隣の方との交流も盛んで、散歩時の挨拶を始め、地域のお祭りに参加したり、ごみ清掃に参加するなどの交流がある。外出支援では、りんごの木を買い、利用者と一緒にリンゴ狩りを楽しむなど、季節感を感じられるように工夫している。皆が楽しく生活できるような支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人」を中心としたケアを踏まえ、一日の時間の中で入居者さま本位に事由に時間を使い、その人らしい生活が出来ているか検討している。	理念は申し送り時等に確認をし、また随時施設長より話をしている。利用者を中心としたケアの実践が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の方が、七夕の飾りに使用する竹をホームまでお持ち頂いたり、散歩の際には日頃から挨拶をし交流している。年一度、外部から太鼓をたたきに来ていただき、ご近所の方々も見にこられる。	地域の方との交流は盛んで、地域のゴミ拾い活動やお祭りに参加している。散歩時に農作物をいただくこともある。高校生のボランティアが来ることもあり、日常的な交流が見られる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族の方や見学に来てくれた方、電話等でも相談していただいたり、彩清会グループの中でも相談があり、認知症の方でも変わらない生活が出来るよう支援している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の状況やサービスの状況、ホーム内でのイベントや外出時の報告、それらが入居者さまにどのくらい満足いただけたかを聞き、事業報告書として残し、反省点なども踏まえ次に活かしている。	年6回行われている運営推進会議では、地域包括、職員、区長、病院の相談員、利用者が参加している。事故やイベントの報告、反省点を話し合い、地域の方に知ってもらうよう工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から研修の案内などを市町村担当者の方から伝えて頂いたり、ホーム側で解らない事や聞きたいことなどにも親切に対応していただき、とても安心しています。	市町村との関係は良好で、密に連絡を取り合っている。日頃から研修の案内が届いており、参加するよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎朝行われる朝礼や毎月行っているカンファレンス等でも、まず何が拘束になるのか基本的な事は伝え、その他にも入居者さまの心を拘束していないか、入居者さま本位の思いを叶えられているか、現状に満足せず日々検討しています。	身体拘束は行わないという方針のもと、職員には何故身体拘束を行ってはいけないのかを十分に伝え、理解している。玄関は施錠をせず、自由に行動できるようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修や日々の支援の中で虐待につながる危険がある部分を改善、話し合いを定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象者はいない。研修等に参加し学ぶ機会を設けていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ずホームの理念をまず伝え、入居される方とご家族様が入居後、どんな生活を望んでいるのかを十分に聞かせていただきます。その他、疑問に思うこと等あれば、気軽に聞いてくださいと話しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のカンファレンスや運営推進会議に入居者さまにも参加していただき、現状の満足度を聞かせていただいております。入居者さまがホームでより安心して楽しい生活が出来るよう努めています。	家族来所時には、必ず職員と家族が話し合える場を持っていて、意見や要望を伺っている。また運営推進会議に参加してくれる家族も多く、要望等伝えやすい環境となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気軽に職員が相談出来るように、管理者や現場リーダーも常に笑顔を忘れないよう努めています。その結果、職員も気兼ねなく仕事の業務の事に限らず、価値観の違いから生じる職員同士の意見の食い違いなどにも相談に来てくれます。	6カ月に1度、職員にはパフォーマンスシートを記入してもらい、5年後、10年後に何を行いたいのか、その為には今何を行うべきなのかを考えている。また何時でも意見が伝えられるような環境作りにも心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の賞与、年1回の昇給がある。パフォーマンスシート(半年の取組みや5年後10年後の自分は仕事を通じてどうなっていたいか、反省文は厳禁)を提出してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	複数事業所連携研修に参加し学んでいる、参加出来なかった職員には、後日以降に伝達講習を行っている。その他には、役職者などは、人員定着セミナーなどにも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	主に、彩清会グループのイベント等に、入居者様を交えて参加し、日々の仕事に対しての思いや、今後の目標や夢を語り合う機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が納得できるまで説明などすることを常に努力している。面会時以外でも電話などを受け付けることを説明している。家族の要望も聞き業務に取り入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様が納得できるよう説明などに努める。面会時以外でも臨機応変に電話なども受け付け、家族の要望も聞き業務に取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族等、ご本人様の要望をまず聞き、梅こよみで、どんな生活を望んでいるのかを聞いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者さまと食材を買いにいたり、イベント等にも参加していただき、梅こよみを盛り立ててくれています。運営推進会議にも参加していただき、より良い暮らしの話合いも行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに、日々の暮らしの様子を話させていただいています。体調不良になった場合なども、その対応と経過を電話等でも説明しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話で入居者様の友人等から連絡いただく事もあり、面会する際には電話で入居者様と直接話してもらい、いつでも来られるよう時間等も配慮しています。	友人の来所や電話の取次ぎを行うなどして、馴染みの人との関係が継続できるよう支援している。また、月に1度は近隣のスーパーに出かけるなど、馴染みの場にも出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	安心して暮らしてもらうためにも、まずは入居者様同士の絆を深められるよう、時には職員が間に入り、お互いの共通点を探し、話しやすい雰囲気作りにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した跡でも、手紙をいただいたり、電話等でご本人様の様子を伝えてくれる家族もおり、今後またお世話になる事があった場合は宜しくお願いします、との話も頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、ご本人様の思いや希望も変わってきますので、話を良く聞いた上で、ご本人様と再度相談しながら、納得し満足出来るよう努めています。	日々の生活の中で、利用者が何を望んでいるのかを把握し、希望を伺っている。外出する際などは再相談をしながら行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の様子は勿論、昔の趣味等を家族等に伺い、今までと変わらない生活が出来るように努めています。面会時にはご本人の様子を伝えさせて頂いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現在、入居者様と相談しながら無理ない程度にリハビリも行っている、日々の生活の中でもリハビリになりますが、それでは足りないという方には、病院の理学療法士と相談しながら、ご本人様が目標を持てるようなリハビリに取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスでも、今現在の暮らしとケアの見直しを行っています。職員だけの考えではなく必ず本人に話し、納得が得られているのかも、担当職員に聞き、職員本位ではなく、入居者様本位のケアに結び付けている。	居室担当がいるので、カンファレンス時などには意見を吸い上げて、職員全員で話し合っている。利用者本位になるように細かな計画を立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	週間ケア記録にバイタルや食事量、特記事項などには、普段と違った様子が見られた場合記入している。申し送りノートにも、ケアの細かな変更等があった場合記入し、誰でも見られるようになっており、統一ケアが出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在では、リハビリのニーズが多くなっており、家族からも望まれるようになってきた、リハビリを通じて入居者様も以前に比べ、より笑顔も多くなってきた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その人らしい生活を支えるために、本人のニーズの把握に努め、近隣を散歩しながら自然にも触れ合い、近所のりんご園には毎年りんご狩りに出かけている。豊かで安全な生活を楽しめるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携医療機関による定期的な受診を支援している。また、必要に応じて他の医療機関への受診支援を行っています。	同法人に病院があり、看護師等が定期的及び随時受診支援を行ってくれる。また他病院に行く際にも病院の相談員が密に相談に乗ってくれるので、安心した医療を受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に正看があり、体調の変化や不調時の対応について日頃から相談をし、外出の際なども同行している。適切な受診もできるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院については、ご家族様と相談し、病院相談員にも協力して頂き、スムーズな支援が出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族等とまず相談し、連携病院の医師や相談員、看護師とも相談し、入居者様にとって何が最善であるか検討し、方向性を決めている。	入居の際には家族に説明し、納得していただいている。実際に重度化した際には、医師、家族、職員の三者で話し合い、利用者にとってより良い支援が行えるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故対応マニュアルを備え勉強会を通じ職員個々の意識を高めている、後は、実際に起きた時に落ち着いて行動できるか、そのためにも訓練を行い続ける。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難、通報訓練を実施し、消防職員からアドバイスも頂いている、地域共同避難訓練DVDを購入し、入居者様も含め研修を行った。	年2回行われている避難訓練では、外まで皆が避難している。消防署からアドバイスももらったり、DVD研修を行うことで、防災の意識を高めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マナー研修に参加したり、日々言葉使いや、対応の仕方については、個別にその都度指導しているカンファレンスの際も、相手に分かりやすく丁寧に接するよう話している、それでも改善が見られない場合は再度個別指導を行っている。	一人ひとりの人格を尊重し、声掛け等にも注意している。また、部屋に入る際は必ずノックをするなど、プライバシーを損ねないような対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各入居者様毎に担当職員を決め、入居者様が要望を言いやすい関係と環境を築き、より良い生活に繋がるよう支援している。担当職員は入居者様から要望があった場合、必ず管理者、現場リーダーに報告するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員本位ではなく入居者様本位のサービスを常に心がけ、何かを決める際も、入居者様に直接関係することは、入居者様にまず確認と納得を得てから決定している。(食堂の配置等)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的買い物にも出かけ、試着などをして楽しい買い物が出来ていると思う。広告なども見ながら欲しいものを見つける楽しみもあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好きな食べ物等を事前に聞いており、行き着けのお店に外食に出かけたり、時には今まであまり食べたことがないが、食べてみたいなどの要望も聞き、洋食を食べるにも出かけている。	利用者にはできることは行ってもらうなど、食事を楽しめるような支援を行っている。新年会時にはバイキング方式を取るなど、普段と違う雰囲気でも食事ができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看護師と相談しながら、その人に合わせた栄養バランスに努めている。必要であれば、連携病院の医師等にも相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの際、うまくケア出来ない方に関しては、クルリーナ等、その人に合わせた器具を使用し、清潔の保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿排泄パターンを週間ケア記録等で確認しながら、オムツ使用の方でもトイレ誘導を行っており、オムツ〜リハビリパンツに変更している。	利用者一人ひとりにあった排泄パターン表を用いて、適宜声掛けを行っている。トイレで排泄することを大切にしており、全介助の方がリハビリを通して自ら動くことができるようになったという、改善例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘により精神不安の増幅等もあるので、排便管理を日常的にしている。記録表を活用し排泄に気を配っている。便秘気味の方には水分量なども留意し、看護師・医師に相談しながら対応し、適度な運動を行う。浣腸等は出来る限り行わない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本的に時間を決めて行っている。入居者様からの希望があれば入浴日や時間を変更する事もあり、外食、外出等で入浴日が変わる際は、入居者様に確認をとり、了承が得られた場合、曜日の変更を行う場合もあります。	入浴時間等は、利用者の希望があれば個別対応も行っている。ゆず湯といった季節感が感じられるものも入浴に取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室を快適な温度に調節したり、季節に応じた衣服、布団で就寝して頂いております。不安で眠れない入居者様には、お茶やお菓子を提供し、ゆっくり話を聞き、少しでも安心出来るよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報等、個々のファイルに管理されており、全職員が見られるようになっている。副作用の疑いがあった場合、ホームの看護師、主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に趣味や、楽しみ方も違う、共通の趣味をお持ちの方で将棋をやる方、畑仕事や食器洗いをやる方、それぞれの入居者様がホーム内で役割を持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の職員配置などにもよるが、散歩や外出などの支援を行っている、月に一度は外食等にも出掛けており、入居者様のなじみの食堂に出掛ける事もある。りんご園にてりんごの木を1本買わせていただき、毎年11月にりんご狩りに出掛けている。	天候や体調に応じて散歩に出かけている。11月のりんご狩り、冬場は近所のイルミネーションを見に出かけるなど、季節に応じた外出支援も多く行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金を持つことに関しては、本人の気持ちを尊重し、ご家族様とも相談の上、所持して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があれば対応させて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂の席によってはテレビが見にくい等の話がありましたので、職員で話し合い、入居者様にも了解を得た上で、配置換えを行っています。癒しの音楽や昔の曲等もレコードで流し、気持ちが安らげる時間も作っています。	利用者が安心して生活できるよう、また自分らしくいられるよう配置などを十分考えている。作りが広く、利用者が自由に過ごせるような空間、環境作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共通の話題を持っている方同士でテーブルを囲んでお茶をしたり、入居者様同士で広告を見ながら買い物や予約を決めたりしています。部屋でテレビを見ながらのんびりしたい、という方もいるので、本人の思うように生活して頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	まずは、本人の望むように家具等を配置して頂き、その後、転倒の危険がある場合などは、本人と相談し、配置を変える事もあります。	利用者が安心・安全に生活できるよう、馴染みの家具や配置の工夫をしている。生活する中で、変えた方が良い場合などは配置換えも行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の要望として、もっと歩けるようになりたい、1人で買い物に行けるようになりたいという思いから、リハビリのニーズが高くなっています。歩行訓練やマシンを使用し、下肢の筋力アップ何より本人が目標を持てるようなリハビリをしている。		